

発行
平成20年
10月7日
復刊 第73号



発 行 者
長野県下伊那農業高校
同 窓 会
TEL②5550(代)
FAX③0339
編集・発行
同 窓 会 幹 事 会
印刷 龍共印刷(株)

稲穂会の組織と 事業の強化を

同窓会長 吉澤 政弘(高5回)



同窓会の皆様には、ご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

下農同窓会は、大正十二年に発足して、今年で八十五年になりました。今年新しく同窓会員になられた皆さんは、高第六十回の卒業生で、平成生まれの会員であります。大正から昭和を経て平成へと時代は移り、人は変わっていきませんが、母校は常に地域の期待に応えながら今日まで健全な存在を保ち、単独農業高校として発展を遂げており、大変うれしく思っている所です。同窓会は母校がいつまでも単独農業高校として存続する為に、会員各位のご協力を支えに支援をして参りたいと考えておりますので、一層の御協力をお願い申し上げます。さて日頃から御理解とご協力を賜っております同窓会活動について、若干の所

見を述べさせて頂きたいと思っております。平成二十年の同窓会活動は、去る五月三十一日開催の代議員会において、十九年度の事業と決算の承認および二十年度の事業計画、予算の決定を頂き始動しております。また席上、新しく理事、代議員に就任を予定されている高六十回卒の竹折哲也さんと栗山浩平さんを紹介し、万場一致で承認されましたので、御報告いたします。母校創立記念事業については、実行委員会事務局長の横川教頭先生から、現在までの経過説明をして頂きました。最後に、支部活動の活性化を計る目的で作られた表彰規程により、本年度は、上郷支会を表彰致しました。事業計画は多岐にわたっておりませんが、特に重要と考えているものは、稲穂会の組織と事業の強化、稲丘時報の会員への配布と支会活動の関係強化、そして、目前に迫っております母校創立九十周年記念事業への取り組みの三点であります。まず稲穂会でありましたが、同窓会員のほぼ二十五パーセントが、女性会員で今後そ

の割合は更に高くなること
が推定されます。組織強化
を計るには、今においては
ないと考えております。稲
穂会の役員の方には、既
に色々立案・企画をこ
らして努力をして頂いてお
りますが、よろしく願い
致します。

稲丘時報の配布の件は、
毎度おねがいしているわ
けであります。今年度表
彰された上郷支会の活動を
手本にして、各支会にもお
願ひして、一人でも多くの
会員に時報が届く様に致し
たいと思っております。支
会長さんの御協力をお願い
申し上げます。

母校創立九十周年事業に
つきましては、改めて御挨拶
をさせていただきます。たく
つもりでございます。
終りになりましたが、同
窓会各位の御健勝と母校
の益々の御発展を御祈念申
し上げ御挨拶いたします。



OB展開催



昨年度の稲丘祭(十一
月中旬実施)でOB展が
開催されました。(右写
真)
写真・絵画・書が約三
十名より出展され、稲丘
祭を盛り上げていただき
ました。
二十二年度にも創立九
十周年記念事業の一環と
して、稲丘祭期間中にO

B展を開催するよう計画
をしております。写真・
絵画・書・陶芸・彫刻・
手芸等、その他多くの作
品を出展していただき盛
り上げていただきたく思
います。また、当日に
は多くの方にご来校いた
だけると幸いです。
(七頁より関連記事掲載)

ご挨拶

学校長 斎藤 秀雄



て仮予約の運びとなっております。

母校の近況について二点お知らせします。

まず高校再編についてです。飯伊地区高校再編一次計画は、一段落しています。

ご案内のとおり長姫と飯田工業の合併が合意され、具体的な検討がなされています。

しかし、平成三十年代には生徒数がさらに減少するため、再編二次計画が検討されると思われます。

今回のようにいきなり県教委案が示されることはないと思われませんが、役員の皆様はじめ会員の皆様には常に迅速に情報を提供してまい

る所存でございます。

次に実習地の借地問題です。本校には約四町歩の実習地がありますが、三割強が借地となっております。

買取りができない県財政の現状から、地主の皆様にお返しいたします。その場合、

矢高水田との交換等で、本校隣接の実習地を確保することを前提に考えています。

そのため少し時間を要するかと思われませんが、ご承知おき願いたいと思います。

な お新たな実習地確保等の問題

念式典の期日と会場につい

でご相談をする場合にはご協力をお願い申し上げます。八月六日に行われた中学生体験入学には約五百人の参加がありました。本校を志願する生徒が今年も大勢いるものと思われ、うれし

引き続き、職員一同農業教育を中核に据え、地域に貢献し、信頼される学校づくりに努める所存です。最後に、会員各位の益々のご健康とご活躍をご祈念申し上げます。

会 務 報 告

幹事長 大澤 勲 (高22回)

地球温暖化の影響が猛暑が続いた夏から農家にとつて一番の楽しみである実りの秋がやってきました。同窓会員の皆さまにおかれましては、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

校内幹事会の鈴木前幹事長の後を引き継ぎ、幹事長をお受けすることになりました、もとよりその器ではございませんが会員の皆様方、校内幹事の先生方のご指導・鞭撻を頂き、精一杯勤めさせて頂く所存でございます。

ので一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

新役員体制になり二年目を迎え、五月に開催致しました理事・代議員会では昨年度の事業決算報告、本年度の事業・予算が承認され

事業がスタート致しました。

引き続き、職員一同農業教育を中核に据え、地域に貢献し、信頼される学校づくりに努める所存です。

最後に、会員各位の益々のご健康とご活躍をご祈念申し上げます。

第一に、五月二十六日に代議員会を稲丘会館で開催し多数の代議員の方々にご出席を頂き、盛会の内に議事の承認を頂きました。

第二に、同窓会の大きな事業の一つであります親善ゴルフ大会が六月二十八日、百九十五名のご参加を頂き盛会に行われました。結果は優勝準優勝三位のベスト3が第二十六回の卒業生というところで働き盛りの油の乗りきった皆さんでした。又参加者の皆様から母校に多額のご寄付をいただきました。校友会など生徒の活動に使わせて頂きます。

第三は、稲穂会(女子部)の活動が益々活発になつ

たことであります。本校卒業の女性会員も四千三百八十六名と、全卒業生数一万六千名の四分の一と増え、在校生に至っては過半数を占め、稲穂会の活動が更に活発になり同窓会に新たな

明るい旋風を巻き起こして頂けることと期待しております。

二月には総会も予定

致しておりますので、多数のご参加を頂き盛会になりますことを念じておる次第であります、各支会においても組織作りを強化して輪を広げて頂きたくお願い致します。

第四に、支会活動であります、例年総会を開いて頂いておりますが、昨年度

です。



です。

平成19年度 決 算 書

平成20年5月31日 提 案
平成20年5月31日 承 認

- 1 歳入総額 2,121,236円
- 2 歳出総額 1,856,789円
- 3 差引残額 264,447円

1 歳入の部

(単位：円)

科 目	予 算			収入済額	比較増減	
	当初予算額	補 正	計			
入 会 金	1,312,000	0	1,312,000	1,312,000	0	8000×164名
雑 収 入 (利 子)	180	0	180	916	736	
繰 越 金	492,320	0	492,320	492,320	0	
終 身 会 費	318,000	0	318,000	316,000	▲2,000	2000×158名
合 計	2,122,500	0	2,122,500	2,121,236	▲1,264	

2 歳出の部

(単位：円)

科 目	予 算 額			支出済額	備 考
	当初予算額	補正・流用額	計		
1 事務費	430,000	0	430,000	256,323	
(1) 旅 費	135,000	0	135,000	17,335	支会総会等の旅費
(2) 事 務 費	60,000	0	60,000	45,778	手数料他・プリンターインク
(3) 通 信 費	20,000	0	20,000	6,840	郵送料・電話代
(4) 消 耗 品 費	35,000	0	35,000	17,670	印刷用紙他
(5) 負 担 金	30,000	0	30,000	30,000	地区同窓会負担金
(6) 正副会長交際費	150,000	0	150,000	138,700	会議参加費等・送別会
2 会議費	240,000	0	240,000	213,636	
(1) 役 員 会 費	30,000	0	30,000	25,436	監査会等
(2) 代 議 員 会 費	150,000	0	150,000	147,000	代議員会
(3) 幹 事 会 費	60,000	0	60,000	41,200	校内幹事会会議費
3 事業費	1,240,000	0	1,240,000	1,230,182	
(1) 稲 穂 会 費	120,000	▲10,000	110,000	109,095	活動費・総会費
(2) 事 業 推 進 費	270,000	110,000	380,000	376,818	支会総会の参加
(3) 稲丘時報発行費	270,000	▲25,000	245,000	248,460	稲丘時報発行費
(4) 同窓会林管理費	30,000	▲25,000	5,000	5,000	
(5) 新正会員歓迎費	150,000	0	150,000	150,000	C D (校歌他) 購入用積立て
(6) 稲丘会事業寄付金	200,000	0	200,000	200,000	(財)稲丘会
(7) 親 善 大 会 費	140,000	▲50,000	90,000	86,809	親善ゴルフ
(8) 研 究 費	60,000	0	60,000	54,000	母校の将来を考える会
4 雑支出	170,000	0	170,000	156,648	
(1) 慶 弔 費	110,000	10,000	120,000	113,648	祝儀・香典・弔電
(2) 転退職職員記念品費	60,000	▲10,000	50,000	43,000	餞別
(3) 雑 費	0	0	0	0	
5 予備費	42,500	0	42,500	0	
(1) 予 備 費	42,500	0	42,500	0	
合 計	2,122,500	0	2,122,500	1,856,789	

は東京・名古屋・上郷・市役所・合同庁舎・伊賀良・松尾・神稲・座光寺・川路の各支会で開催され、会長始め事務局から校内幹事が出向いております。その中で年一回発行される時報が届かないと言った声を耳に

致しますが、是非各支会で組織の立て直しをして頂き、全会員の皆さまに時報が届きますことを願うものであります。又、九十周年、百周年に向け更なる支会の発展を願っております。

事業については、第一回実行委員会を十九年十二月三日(月)に本校会議室にて開催し、骨子についてご審議いただきました。尚詳細については、別欄で事務局長の横川教頭から報告致します。

化に伴う高校改革プランは尚いっそう深刻な問題を投げかけています。同窓生の皆様におかれましては、母校の発展のためにより一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願いを申し上げます。

最後にありがとうございました。



支会・部会・OB・OG会だより

上郷支会報告

上郷支会長 唐澤 稜(高13回)

上郷支会では、平成二十年五月の同窓会代議員会に於いて、支会活動に対し同窓会から表彰状を頂きました。支会先輩各位の活躍に感謝申し上げます。
上郷支会は、昭和四十五

年二月に上郷支会規約が設けられ「地区内同窓生の親睦を図ると共に地域の産業経済文化の発展に寄与する」を目的とし、正副支会長、地区代表幹事、相談役、監事、事務局等の役員を置き、



会員一人三百円の支会費を集め、年一回総会を行っております。地区幹事さんが、全会員に稲丘時報と総会通知を配り、替わりに年会費三百円を集金し、総会に提出してもらっています。年度総会は、毎年七月野底山にある姫宮センターで行ってきましたが、姫宮センターの焼失により十九年からは、別会場となり、今年は上郷公民館で経費節約の形で出席者からは五百円の会費を頂きました。
支会の年間予算は当初から二十万から三十万の間で変動して来ました。事業は、同窓会親善ゴルフ大会へ参加、稲穂会(女性部)参加にそれぞれ助成する他は、総会費、会議費に使用。同窓会親善ゴルフ大会には毎年十五名から二十名の会員が参加、今年で十七回となりましたが、支会対抗では、優勝一回、準優勝六回、三位二回と好成績を残しています。女性部会員も増加傾向になり、補助も増額し活発な活動をお願いしています。
平成二十二年には九十周年を迎え下伊那農業高校が益々発展されることを御祈念申し上げます。

下農第48回卒業生同窓会 「あなたがいたから…」

実行委員長 森 賀津也

平成十九年十一月十日シルクホテルにて、下農同窓会が行われた。まさかこの日がくるとは…。話は、その一年前に逆上る。そもそも同窓会を始めようとした切っ掛けは何となくだった。最近ヒマだから何かおもしろいことをしようと言う一言から始まった。とりあえず何人かに連絡をし、事情を話した所、即OKの人もいれば、あまり乗り気では無い人もいた。先が思いやられると思ひ、私は拳を握った。各クラス二名程度集まり月二回程度の打合せが行われた。思ったより楽では無かった。意見のぶつかり合い、金額の問題、場所、日取り…上げればきりが無い、目指す所は険しいと思

いながら、私は酒に酔っていた。その日はどこか光り輝いていた。それから数ヶ月後…なかなかみんなの予定が合わず打合せが思うように進まず、内心苛立っていた。もしかしたら、このまま同窓会は実現しないのでは…。不安をよぎる何かが一瞬、脳裏に思い浮かんだ。話は進まず今日も打合せは幕をとじる。
その日は…悲しい程の雨だった。あれから数日…私は実際面倒くさくなっている、私だけでなく多分他人達も…。
そう思いながら町を歩いていると、学生たちが楽しそうに歩いていた。「自分にもこんな時があったのか」そう考えると、今ごろみんな何をしているのだろうか、と、シンプルな疑問に行き着いた「今ここで動かなければきっとこの先、だれも動かないだろう。動くなら今しかない」私の中で何かが変わった。そして…何かが生まれ

た。
それからの打合せはスムーズだった。最終の打合せが終わった後…「本当にみんな来てくれるのだろうか…」私の心は大きな不安に包まれていた。みんなの気持ちも一緒だと思う。
セミの鳴き声が止み、秋の空をうかがえる頃、私は今、シルクホテルの中で準備をしている、後一時間後同窓会が始まるのだ。その頃になると会場にちらほら同年生たちが入ってきた。予想以上の人数に我々は驚いた。当初は六十名も来ればいいだろうと思っていたのが百二十名前後来たのだ。





ホールインワン達成の丸山清勝さん

日(火)には役員であららぎカントリークラブへ協力とお願いでかけ、前日の二十四日に賞品係と役員とで景品をはこびました。

大会当日、受付を六時四十五分に開設し、七時十五分から開会式を行い、実行委員長の勝又氏からあいさつ、宮沢直人競技委員長より競技説明が行われ、七時三十分勝又、森山両氏の始球式、二十五回卒泰阜の高原君の火花を台図にアウト、イン二十七組がスタートしました。

森山和幸副実行委員長の開会、岩崎和男同窓会副会長、勝又仁志実行委員長、長谷川あつとつづき、例年どおり学校へ出席者からいただいたチャリティー金を勝又実行委員長から、横川秀明教頭先生に贈呈(二十万円)し表彰式にはいりました。

最初に特別表彰として、ホールインワンを達成された、大島、生田支会の丸山清勝君に記念品を贈り全員で祝福の拍手があり本人から状況説明とお礼の挨拶があり、ひき



支会対抗、優勝の下條・泰阜支会の皆さん

つづき松尾の宮沢直人競技委員長から、個人総合優勝の下條、泰阜支会の川上勝彦さん、準優勝者の大島、生田支会の丸山清勝さんと表彰され、丸山さんが代表で挨拶、ひきつづき乾杯のあと懇親会はいり、下條、泰阜支会の篠田篤君、宮島和男君により順次成績発表がおこなわれました。

各支会対抗戦は、下條、泰阜チームが優勝され、レディース部門では昨年につづき、市田支会の秋城弓子さんが連続優勝されました。又大勢の参加者を集めた、神稲、河野チーム、上郷チームが特別表彰されおおいに懇親会が盛り上がる事が

できました。各特別賞が配られて、ベスグロは山吹支会の寺沢誠さんがグロス七十七で獲得、二番手は伊賀良支会の原武義さんでした。

少ない予算のなかで景品、懇親会の費用等全員の方に賞品をわたすことができず、今年から特別賞以外のとび賞については、本人がいない場合は次のかたに景品を渡すことになりました。

最後まで懇親会に残られた方のなかで何名か景品をもらえることになりました。



盛会のうちに進む中、勝又実行委員長より来年の事務局長の指名が行われ、十九回卒、神稲、河野支会の平功君が指名され挨拶と次年度の抱負、協力をお願いする、最後に全員で泰阜支会の篠田君の音頭で旧校歌を斉唱し、同窓会校内幹事長の澤野先生の万歳三唱、加藤榮隆副実行委員長

の閉会の辞で無事終了することができました。

最後に、個人、協賛企業各方面からたくさん景品をご提供いただきまして、この紙面をお借りしてお礼を申し上げます。今大会が盛況のうちに終わられたのも学校事務局の先生方、各支部の幹事の皆様、各役員の方々のご協力があったからと感謝する所です。私達十九回卒が連続で事務局をおおせつかり来年もまた十九回卒と団塊の世代がつづけております、二十回、三十回と途切れることなく続くことを期待し報告とさせていただきます。

法務大臣表彰

長野県人権擁護委員連絡会
会長 茂木立好

則さん(高6回)
飯田市松尾上溝

昨年十月、茂木立好則さんが多年にわたる人権擁護委員としての功績により、法務大臣から表彰されました。

茂木立好さんは「最近はいじめや離婚、相続問題が多い、ストーカーやセクハラも昔は都会にしか考えられなかつたが地方でも多くなつた、さらに研鑽し、人権が侵害されない社会になるよう頑張っていきたい」と語っておられました。



茂木立好さんは市議会議員や会社役員を歴任し、平成八年から委員を務めている長野地方法務局飯田支局常設相談所の常駐相談員として、これまで三千件余の相談を受けるなど、人権の擁護と人権思想の普及高揚に多大の貢献されたとして表彰されたものです。

創立九十周年記念事業

下農創立百周年を単独農業 高校として迎えるために

実行委員長 吉澤 政弘

このたび稲丘時報第七十三号の発行にあたり、九十周年記念事業実行委員長としてご挨拶申し上げます。「光陰矢の如し」と申しますが、八十周年記念事業が平成十二年に盛大に挙行

準備小委員会を開き、次の記念事業の事業年を九十周年とし、創立百周年の基礎となる記念事業と位置づけ、募金は行わない方向で考え、県に体育館改築、グラウンド改修を働きかけるといふことを骨子にして、今後更に組織を拡大しながら準備を進める予定でしたが、平成十七年六月、突然飯田長姫と母校が高校再編整備の対象校に挙げられ、これが実現すれば、母校はその歴史を閉じる運命にありました。少子化が進む中にあるは、高校改革は避けて通れませんが、学級数の削減、学校改

変整理は当然のこととして受け止めていかざるを得ません。姐上にあげられた長姫の同窓会と役員同志額を寄せ合って、困ったことになった、どうしたものかと、二回程話し合ったことが、つい昨日のことのように思い出されます。その後旧第九通学区(飯伊地区)一校減という県の候補案は、南信州広域連合において、改めて検討の結果「飯田長姫と飯田工業を統合し、併せて両校の定時制も統合する」ことが望ましいとする代案を県へ提示して、現在この代案に添って、具体化の為

90周年記念事業実行委員会

係	職員	同窓会	PTA
実行委員長		吉澤 政弘	
副実行委員長	学 校 長		P T A 会 長
顧 問		森田 恒雄	
		古田 芙士	
		今牧 英世	
		嶋岡 一蔵	
		吉川 米吉	
事務局	教 頭		
	幹 事 長		
	副 幹 事 長		
	副 幹 事 長		
	教 務 主 任		
	事 務 長		
委 員	全校内幹事	岩崎 和男	副 会 長
		松尾 清明	
	各学科主任	坂巻 京子	正副学年委員長
		林 勇太郎	
	各学年主任	伊原 耕作	正副各部長
		市瀬 鎮夫	
	進路指導主任		監 事 (3)
	生活指導主任	久保田 信好	
		関島 武俊	
	保健厚生主任	高田 清人	
		大平 好英	
	自治活動主任	佐々木 宣之	
	小林 郁夫		
農 場 主 任			

九十周年事業について

教 頭(事務局長) 横 川 秀 明

同窓会の皆様には日頃から、本校の教育活動にご支援ご協力を賜り暑く御礼申し上げます。八十八年の歴史と伝統を引継、新たな農業教育を充実するために日々取り組んでおります。平成二十二年に九十周年を迎える本校の記念事業実行委員事務局としまして、これまでの経過報告をいたします。その上今後の事業内容について皆様からご意見



見を伺いたいと思います。平成十七年一月、十八年九月、十九年七月の三回にわたり、同窓会を中心に準備委員会を開催しました。その際、平成二十二年を百周年向け基礎となる事業年とし、新たな一般募金をせず、八十周年残金と記念事業積立金でまかなう基本方針が示されました。そして、昨年十二月三日第一回実行委員会がPTA・

クシオンを起こされました。二十年度アグリサービスクで一学級増募されたことは積極姿勢のなによりこの証と高く評価しております。これに呼応して、同窓会、PTAも、一丸となって母校を支援し、協力し、百周年を単独農業高校として迎えることが出来まことを切望して止みません。

九十周年記念事業実行委員会の立ち上げに当たり、この事業が百周年を単独農業高校として迎える為のステップとなることを祈念して御挨拶いたします。

職員・同窓会より選ばれた役員の方々五十三名が出席して行われました。

式典日程は平成二十二年十月二十三日(土)を第一案とする。式典会場については新体育館が完成した場合本校体育館で実施、その後祝賀会に場所を移して実施する。未完成の場合、飯田市文化会館を予定するなど検討されました。そのほか記念事業としてゴルフ大会・マレットゴルフ大会・稲丘祭OB作品展・本校の足跡DVDの作成等の意見が出されました。式典内容や記念品等についても今後検討していくことになりました。質素な中でも思い出が作れる記念事業にしていきたいと考えます。

「地域社会に貢献し、信頼される学校づくり」を教育目標に、本校の良き伝統を継承する教育活動に邁進していきたいと思えます。会員の皆様にはいろんな場面で九十周年事業に対して、実行委員や学校職員にご意見、ご要望を伝えていただければありがたいです。



下農は今 (在校生の活躍)



剣道班

インターハイ

南 島 詩 笑 里

私が剣道を始めて今年で十二年になります。小学校一年の時に地元の剣道クラブで始め、中・高では部活動としてやってきました。

十二年間ずっと剣道をやってきて、きついこと、苦しいことはたくさんありました。「もう嫌だ」と思うことも何度もありました。それでも今まで続けてこれたのは、苦しい時も楽しいときも一緒だった仲間、一生懸命私たちを指導してくれる先生、支え、応援してくれる家族がいたからです。みんなが支えてくれたから今の私があります。今回

のインターハイ出場もみんながいたから出来たことです。心から感謝しています。

インターハイでは感謝の気持ちを持ち、一つでも多く戦おうと思いました。それが恩返しになると思ったからです。そしてインターハイ当日、たくさんの方が応援に来てくれました。みんなが見守る中で試合が出来



たこと、とても幸せに思います。結果は二回戦負けでした。長い時間をかけ、私のために来てくれたみんなに、私が今までやってきたことをたくさん見てもらおうと思つてやったのですが、力が足りず二回戦で負けてしまいました。自分が弱いせいで試合に負けたのもとても悔しかったけれど、みんなに対しての恩返しが出来なかつたことも悔しかつたです。それでもみんなはあたたかく迎えてくれました。そのおかげで少しむくわれた気がします。こんなに支えてくれる人たちの中で剣道が出来て良かったと思えました。

インターハイが終わり下伊那農業高校剣道班としての活動は終わりました。

この学校で、私たちのために必死になつてくれる先生の元で、剣道が出来て良かったと心から

思っています。高校での剣道は終わりますが、これからも剣道は続けていきます。大学でも続け、全国という舞台でもっと良い結果を出し、恩返しをしていきたいです。



卓球班

インターハイに 出場して

塩澤 大樹

私は八月二日から六日まで埼玉県春日部市で行われたインターハイに参加してきました。私にとって初めての全国規模となる大会でした。開会式で他の県の選手達を見て、私が本当にこの場所において良いものかという気持ちがありました。五日に試合があったため三、

四日は試合の観戦と近くの大増中学校で練習をしました。他の選手達の試合は見たことのないレベルで、白熱していました。そして一球をとっても大切にしていきました。長野県ではありえない驚きと感動の連続でした。試合会場も常に満員で驚かされました。



練習は二年生と澤田としました。彼は左利きで初戦の相手とは利き腕が違いましたが、関係ありません。気にしていても意味のないことですし、彼ならば必ず調子上げてもらえると思っただけです。

しかしアクシデントが起こりました。三日の日にラバーがおかしくなり、気にせず次の日も練習をしていたのですが、急に球が入らなさと感じるようになりました。そこでしっかりとラバーを確認すると、スポンジとゴムの部分がはがれていました。普通通このようなことは起こりえないことです。端なら問題なかったのですが、ちょうど球が当たるところでした。サブラケットに換えるなどしましたが、全くと言っていいほどコートに入りませんでした。そのために壊れたラケットのまま続け、練習後に長野県の仲間からラバーを貼るための接着剤を借りました。このようなアクシデントがありました。四日を終えることが出来ました。

そして五日、試合当日になりました。朝練習をした時は昨日のことが嘘のように攻守とも決まるようになりました。練習後、試合会場へ行き試合時間となりました。相手は静岡一位の静岡学園の白井という選手でした。同じ長野県の仲間が一セットも取れずに負けたと聞いていたので、とても緊張していました。

第一セットが始まりました。このセットは自分のサーブが良く

効き、得意な戦術で取ることが出来ました。残りの二、三、四セットは相手のサーブ、攻撃、自分のミスなどで点を取られ、負けてしまいました。しかし、自分の力を出し切り、したいと思っていた試合展開をすることが出来たので、悔いも残らず楽しい試合だったと思えました。

長かったようで短かった五日間、いろいろなことがありました。しかし残っていたものは楽しかった思い出、清々しい気持ちだけです。最後の大会に来てくれた父、

平成十九年度末会員の異動

平成二十年四月現在の卒業生数及び母校職員の移動を以下の通り報告致します

一、同窓会員(名)

- 二十年三月 卒業により正会員になったもの 一五八
- 四月 入学により準会員になったもの 一九八
- 正会員数 一七、一二三
- 旧制 二、四八九
- 高校 一四、六三四
- 内訳 男子 一〇、二四八
- 女子 四、三八六
- (十九年度 八二二)

二、職員の異動

〔転出〕
(国語) 水上 治

母、友達、練習に付き合ってくれた澤田、アドバイスをしてくれた寺澤先生、そして私が卓球を続けてきた中で支えてくれた人達、関わってくれた人達すべてに感謝です。今まで本当にありがとうございました。



〔退職〕

- (社会) 細田 和宏
- (数学) 森本 悠
- (理科) 水野 真
- (家庭) 木下真理子 松村 早苗
- (農業) 高野 玲子
- 岩崎 史
- (行政) 肥後 明逸
- 池之側今朝志

〔転入〕

- (校長) 上沼 衛
- (行政) 松尾 和明
- 木村 綾子
- (校長) 齋藤 秀雄
- (国語) 小川 昌利
- (社会) 北村 毅
- (数学) 吉川 蒼子
- (理科) 幸村 益志
- (家庭) 何原津壽子
- (農業) 境 久雄 清水 茂子
- (行政) 林 康子 三谷真紀子
- 杉本 喜秋 藪原 英幸

平成19年度(20年3月卒業)の進路状況

卒業生数		人数	比率	計	合計	アグリサービス	農業機械	園芸クリエイト	食品化学
男子	女子								
76人	82人			158	158	40	40	40	38
総計	158人			76	76	4	40	21	11
				82	82	36	0	19	27
就職者		管内	26.4%	男	27	2	19	6	
		管内	1	0.6%	女	26	7	9	10
男子 33 女子 26 小計 59		県外	2.5%	男	5		3		2
		県外	4	2.5%	女	0			
比率 37.3%		公務員	0.0%	男	1		1		
		公務員	0	0.0%	女	0			
進学者		四大	9.2%	男	10	1	2	1	6
		四大	15	9.2%	女	6	4		2
男子 41 女子 55 小計 96		短大	18.4%	男	4		1	2	1
		短大	30	18.4%	女	27	14	3	10
比率 60.8%		県農大等	3.1%	男	4			4	
		県農大等	5	3.1%	女				
未定比率 1.9%		専修学校等	34.3%	男	23	1	13	8	1
		専修学校等	56	34.3%	女	22	11	6	5
				男	2		1		1
				女	1			1	

進路状況

平成19年度卒業生(平成20年3月卒業)の進路状況

進路指導部長 大平 泰 嗣

ここ数年の本校の進路状況は、概ね進学七割、就職三割で推移してきていますが、今春卒業生に見られる特徴は、就職者がや

や増加したこと(殆どが飯田下伊那地域)と看護学科への進学が六名に達したことです。前者は昨年まで上向きつつあった景

気の動向に一つの要因があるものと思われま。看護については先方の求める学生像が多様化され、受験生の意欲や能力、適正を多面的に評価する動きが始まっていると考えられます。その背景には、上級学校の存続をかけた受験生獲得競争が見え隠れしています。

感じるところがありましたので、南信州広域連合発行の「南信州広域だよりVOL.45 2008.4」から広域連合会長あいさつ(概要)の冒頭部分を引用します。「四年制大学を有しないこの地域の最大の課題は、この地を離れた若者達が、再び戻り、働き、生活を営み、次の世代を育む「人材のサイクル」を構築していくこと。」一旦この地を離れた卒業生が学問や技術を修めた後、再び戻ろうとする折には、地元深く根を張り活躍されている同窓の皆様方の暖かい励ましとご支援のもと、一体となって地域作りに貢献できるように願ってやみません。

会員の訃報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます(敬称略)

- | | | |
|-------------------|---------------|------------|
| 田中 傳(旧五回) | 山本 | 香山 聰(併中二) |
| 遠山 肇(旧八回) | 飯田 | 松村 清吉(二) |
| 吉澤 辰二(旧十一回) | 龍江 | 松村 武男(二一林) |
| 鈴木 久男(旧十四回) | 上郷 | 木下 澄夫(三一C) |
| 倉田 凡夫(旧十五回) | 大島 | 吉原 孝雄(四一C) |
| 北原 康夫(旧十七回農芸科)伊賀良 | 小林 | 篠田 公平(五一A) |
| 秦 弘(旧十七回農芸科)伊賀良 | 新井 和直(五一C) | 牧野 大蔵(五一B) |
| 牧島 豊(旧十七回農芸科)飯田 | 野口 広司(六一A) | 宮脇 久平(五一B) |
| 矢澤 繁(旧十七回農芸科)伊賀良 | 北原菊太郎(六一B) | 下久堅 |
| 菅間 啓司(旧二十回農芸科)上郷 | 代田 義信(七一C) | 東京 |
| 高木 庄三(旧二十回農芸科) 鼎 | 矢澤嘉一郎(七一C) | 上郷 |
| 宮島 正司(旧二十回農芸科) 下條 | 湯沢 伸吉(七一定) | 伊賀良 |
| 林 照夫(旧二十一回農芸科)千代 | 大嶽 徹(十一一F) | 飯田 |
| 下平 博(旧二十二回農芸科)生田 | 花井 博人(十二一定C) | 喬木 |
| 下平 昭(旧二十三一)竜丘 | 木下 崇司(十三一一定C) | 喬木 |
| 林 昭好(旧二十三一)阿智 | 鈴木 敏章(十五一C) | 大島 |
| 後藤 定和(旧二十三一三)且開 | 宮島 健治(十七一C) | 伊賀良 |
| 中島 文治(旧二十四一)飯田 | 原 利夫(三十一H) | 喬木 |
| 牧野内士郎(旧二十四一) 鼎 | 中塚 浩美(三十二一A) | 市田 |
| 村澤 康春(旧二十四一)阿智 | | |
| 川手 信(旧二十五一)上久堅 | | |
| 佐々木義人(旧二十六一A)座光寺 | | |
| 小林 和喜(旧二十七一A) 鼎 | | |
| 小池 元三(旧二十七林業科)喬木 | | |

